

せんだんのき

中原小学校 学校だより
令和4年 3月18日
TEL 42-2110

令和3年度 学校評価について

3月10日(木)に学校評議員会・学校関係者評価委員会の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大により、書面報告とさせていただきます。

学校評価については、12月に実施しました生徒・保護者のみなさんのアンケート結果や学校の自己評価をもとに、年度当初に設定した目標を達成できたかどうかを示し、それについて各委員の皆さんからご意見をいただきとりまとめましたので、ご報告させていただきます。

項目	自己評価	学校等関係者評価
成果 (強み)	感染症防止対策を講じた上、できる範囲での地域を題材にした学習活動に取り組み、公民館・まちづくり協議会を窓口として豊富な人材を得ることができた。また、県や市の事業等も併せて活用して取り組むことができた。 基礎学力定着のため学習規律の確立や「直し」の徹底に取り組み、その成果を結果に結びつけることができた。	<ul style="list-style-type: none">・学校が地域と連携や協働することが、地域を活性化していくことにつながると考える。また、地域と連携した学習内容を工夫し、様々な人とのかかわる機会を得られ子どもの人格形成にとっても大切であり、さらなる充実を望む。・子どもたちが休日や放課後の時間を利用して、自主的に地域のゴミ拾いを行っていること知り、日頃の指導の成果であると感じている。
課題 (弱み)	基本的な生活習慣や学習習慣の定着は、家庭環境により改善が難しい場合もある。早寝・早起き・朝ごはんや家庭学習、家庭での読書習慣(家読)などについては、引き続き保護者・家庭へのはたらきかけや意識づけにとりくんでいきたい。また、課題を抱えた子どもたちの居場所作り・学力進路保障も含めて考えていかなければならない。	<ul style="list-style-type: none">・子どもも保護者も朝ごはんの大切さを再認識する機会をもつことも大切である。・基本的な生活習慣や学習習慣の定着にむけて、引き続き、保護者、家庭への働きかけや意識づけが必要である。・子どもたちの縦割りでの活動や通学団での話し合い等をさらに充実したものにしていける必要がある。
改善策	学校から保護者への情報発信方法を工夫し、タブレットでの配信やWEBページへの掲載、メール配信などによって、いつでも確認できる環境をつくることで保護者・家庭への周知徹底を図っていきたい。また、学力の定着をめざし、個々に応じた学習課題にとりくむことで、個別最適化を推進していく必要がある。今後もさらなる地域学習や体験学習を推進する上で人材発掘をすすめていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none">・以前に比べて、学年や通学団の保護者どうしの連携が薄れてきているように感じる。・学校側から保護者に対して、良いことも悪いこともすべて発信し、たがいに情報共有する必要がある。・校区が子どもたちにとって居心地よい場所であって欲しいと強く思っている。学校からも地域に対して要望を発信し、保護者家庭も含めて、地域が一体になって子どもたちに向かい合っていけたらと考えている。・取り残しの児童が出ないようにICTを最大限に生かし個々の能力を伸ばしていただきたい。
豊かな心と体	①「学級の仲間と誰とでも仲良く楽しく過ごしている」について、児童96%、保護者97%が肯定的な回答をしている。また、相談できる友だちがいる児童が	<ul style="list-style-type: none">・中原小学校の「思いやりのある」よい環境であることがうかがえる。・基本的な生活習慣が身につけていない児童に対しては家庭への働きかけが必要であ

	<p>96%いる。</p> <p>②特別な支援が必要な児童についての指導計画を策定し、職員会議、研修会の場で情報共有を定期的におこなった。</p> <p>③「早寝早起き朝ご飯ができる」について、児童 84%、保護者 88%、教職員 100%の肯定的な回答であるが、引き続き、児童・保護者へのはたらきかけが必要である。</p>	<p>る。また、「朝ご飯」のみを検証してみてもどうか。さらに、タブレットによる生活習慣の乱れや運動不足も危惧する。</p>
確かな学力	<p>①「学習がわかる」について、児童 91%、保護者 93%が肯定的な回答をしている</p> <p>②「適切な指導や支援」について、教職員 100%、保護者 96%が肯定的な回答をしている。</p> <p>③タブレットを教材や資料の提示、調べ学習だけでなく、学習の記録や発表の用具として活用がすすめられている。また、分散登校期間中は、双方向型オンライン授業も実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の基本が語学力といわれているが、本に親しめていない児童 30%弱いることは課題である。 ・タブレットによって教育が途絶える事態が回避できた。また、児童はタブレットを使った調べ学習に学習の楽しさを見出している。しかし、タブレットの利用は、先生児童の双方がたいへん苦勞したのではないか。
安心安全	<p>①「安全確保」について、保護者 90%、教職員 100%が肯定的な回答をしている。今後、通学路等の変更も含め検討すべき課題がある。</p> <p>②地震・津波、火災、不審者を想定した避難訓練を 3 回実施した。すべての訓練で一次避難は 3 分程度で完了をすることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・保護者の協力を得て、通学路が改善された場所もあるが、依然として改善されない場所もあり、引き続き要望をしていく必要がある。また、登下校中の危機管理について子ども達が話し合っていて欲しい。 ・予想される巨大地震に対して、地域住民と協働した避難計画の策定や訓練の実施が急務である。
連携した教育	<p>①全学年が地域を題材にした学習活動が実施できた。</p> <p>②児童の活動を最大限に保障することを心掛け、23 回の体験学習、24 回の校外学習、19 回の出前授業、8 回の児童会主催のたて割り班活動を実施した。</p> <p>③読み聞かせボランティアの活用ができなかったが、高学年が低学年に読み聞かせをするなどの活動を実施した。今後も家で本を読む機会を啓発していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍中の厳しい状況下、地域との協働はかなりできた。様々な人と関わる機会を得られ、子どもの人格形成にとっても大切であり、さらなる充実を望む。 ・オンラインを活用して、ボランティアによる読み聞かせを行うことで、子どもたちに本への親しみを持たせることも可能である。

就学援助制度申請のお知らせ

就学援助申請手続きは、令和4年4月28日(木)までに申請をすると4月分から支給されます。5月以降の申請は、申請月分からの支給となります。また、継続をされる方も、毎年申請が必要です。

詳しくは、松阪市教育委員会からの「就学援助制度のお知らせ」(令和3年11月発行 青いちらし)をご覧ください。なお、申請用紙は、学校にもあります。分からないことがあれば、北部教育事務所・松阪市教育委員会、または、学校までお問い合わせください。



お知らせ 松阪市立中原小学校のホームページを公開しています。
HPアドレスは、<http://www.ureshino-matsusaka.com/nakahara> です。
「松阪市立中原小学校」で検索してください。